～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名　脳動脈瘤に対するフローダイバーターステント留置前後における脳動脈瘤および頭蓋内血管の血行動態変化の解析』
研究機関名　東邦大学医療センター大橋病院
研究責任者　脳神経外科　　職位・氏名 講師・林 盛人

【情報の利用目的】
本研究は、2022 年 11 月～2027 年 12 月までに東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科において脳動脈瘤*1 に対するフローダイバーターステント*2 留置術を受けた方を対象とし、その後 2 年間のフォローアップ期間中 2029 年 12 月 31 日までの情報を利用します。フローダイバーターステント留置術は、従来のコイル塞栓術*3 では治療困難であった、サイズの大きな脳動脈瘤や根元の広いタイプの脳動脈瘤を治療することが可能です。

診療録（カルテ）より取得した情報は、フローダイバーターステントを使用した脳動脈瘤治療において、治療前後の脳動脈瘤内及び分枝血管*4 の血流変化を調べることを目的とした研究に利用します。この研究で得られる成果は、今後のフローダイバーターを使用した脳動脈瘤治療の治療成績向上につながります。

*1 脳動脈瘤（のうどうみゃくりゅう）： 脳の動脈の一部が瘤（こぶ）のように膨らむこと
*2 フローダイバーターステント： 網目の細かい特殊構造のステント（金属のメッシュ状の筒）で、脳動脈瘤内に流入する血液量を減少させることで徐々に血栓化（血管内で血がかたまりとなること）させ、破裂を防ぐ目的で使用される医療器具の名称
*3 コイル塞栓術（そくせんじゅつ）： 脚の付け根からカテーテル（医療用の管）を挿入し脳動脈瘤のある場所まで進めていった後、脳動脈瘤のなかにプラチナ製コイル（細い金属の糸くずのようなもの）をつめ、出血を予防するという治療法
*4 分枝血管（ぶんしけっかん）： 脳動脈から枝分かれした血管

【他機関への提供】
他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる情報】
情報：年齢、性別、病歴、内服歴、脳動脈瘤の部位・サイズ、ステントの留置位置・サイズ、脳血管撮影画像、MRI 画像　等

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【情報の利用または提供を開始する予定日】
研究実施許可日から利用を開始します。

【情報の取得方法】

対象者: 2022 年 11 月～2027 年 12 月までに東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科において、脳動脈瘤に対するフローダイバーターステント留置術を受けた方（おおよそ 30 名を予定）

方　法: 診療録（カルテ）から抽出したデータを解析します（治療中に撮影された画像情報、および治療後定期的に行われるフォローアップ時（最長 24 か月）に施行される脳血管撮影時の画像情報を含む）。

【研究組織】

東邦大学医療センター大橋病院　研究責任者: 林 盛人　役職: 講師

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院 研究責任者: 脳神経外科 講師 林 盛人
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 教授 齋藤紀彦
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 准教授 中山晴雄
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 講師 伊藤圭介
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 講師 藤田 聡
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 助教 平元 侑
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 助教 平井 希
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 助教 佐藤 詳
東邦大学医療センター大橋病院 共同研究者: 脳神経外科 院内助教 小屋原優輝

【情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院　病院長　渡邉 学

本研究に関してご質問のある方、情報を研究に利用することを承諾されない方は、2030 年 2 月 28 日までに下記へご連絡下さい。申し出のあった方の情報は、利用しません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。患者さんご本人はもちろん、ご家族等、代諾者の方からのお問い合わせもお受けいたします。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院　脳神経外科
職位・氏名　講師・林 盛人
電話 03-3468-1251　　内線 7434